

学校教育目標	かしこく やさしく たくましく ～さまざまな体験活動をとおして～		
--------	-------------------------------------	--	--

ミッション	地域の強みを生かした小中高連携による瀬戸田教育の発展	ビジョン	コミュニティ・スクールの強みを生かし、地域連携と小中(高)連携をさらに充実させながら、個別最適な学びと協働的な学びの実現を図ることで、教育の質を高め、すべての子どもたちの可能性を引き出す。
-------	----------------------------	------	--

尾道市立瀬戸田小学校

評価計画					自己評価					学校関係者評価			改善計画
a	b 中期経営目標	c 短期経営目標	d 目標達成のための方策	e 評価指標	f 目標値	7月 g 達成値	1月 h 達成値	h 達成度	i 評価	j 結果と課題の説明	k 二次評価 イ ロ ハ	l コメント	m 改善案
特色ある学校づくり	スクールプライド (学校への愛着や誇り)の育成	1 総合的な学習の時間と生活科を中心とした「ふるさと学習」の充実 2 コミュニティ・スクールの機能化(地域連携)	1 地域発見を柱とした課題解決学習 ・1年生：地域の季節となかよし ・2年生：町探検、地域の海 ・3年生：地域の人・もの調べ ・4年生：地域のよさ見つけ、福祉 ・5年生：しまち商店街応援 ・6年生：伝統文化の継承 2 学校運営協議会の定期的な開催と協議会委員の学校行事等への積極的な参加	1 児童アンケート Q「児童アンケートの実施「ふるさと学習を楽しんでいる」の肯定的評価の割合(昨年度：96.5%)」 2 学校運営協議会委員アンケート Q「学校は定期的・計画的に評価・改善をし教育の質を上げている」の肯定的評価の割合(昨年度：未検証)	85%	93.1%	— %	109%	A	1 児童にとって身近な話題を取り上げて経験したり調べたりして発見することができると、楽しいと感じる児童が多いため、身近なことは当たり前に思っている。身近なことで満足することがないこともあるため、ふるさととの良さや特徴を認識する上でも重要な学習となっている。授業でも学習の発展性を考えながら取り上げる内容を工夫している。 2 学校運営協議会委員アンケートについては、8月21日に実施する学校運営協議会終了後にアンケートを実施するため、現在のところは未実施。	8	・この瀬戸田を好きだと言ってくれる子が増えてくれると嬉しい。ふるさと学習を楽しんでいる子が多いことは、学習内容などの工夫があるからだと思う。 ・昨年度の5年生が作ったしまち商店街のマップのように形にすると、子どもたちにもより一層喜びや楽しさが生まれると思う。今年度の取組も楽しみにしている。	・児童の発達段階に応じた活動や、児童の主体性を大切に学習になるよう、今後も学習内容の工夫をしていく。 ・学校運営協議会委員アンケートの結果、達成度は87.5%、達成度は109.4%であった。しかしながら、1件「わからない」を選択されていた方がいらっしゃったので、学校の取組がよりわかりやすくなるよう、児童の生き生きとした姿を示しながら説明していく。
小中(高)連携の推進	9(12)年間でめざす資質・能力の育成	1 校区スタンダードの定着(小中学校合同取組事項) ・あいさつ・早寝・早起き・朝ご飯・家庭学習の習慣化	1 児童会や保健体育部の活動とリンクさせ達成状況を可視化	1-① 児童アンケート(挨拶)Q「習慣化できている」の肯定評価の割合(昨年度：84.2%) 1-② 保護者アンケート(4点固定)Q「習慣化できている」の肯定評価の割合(昨年度：62.3%) 1-③ 児童アンケート(4点固定)Q「習慣化できている」の肯定評価の割合(昨年度：66.5%)	80% 80% 80%	89% 61.4% 69.1%	— 76.7% 86.4%	111%	A C B	1-① 児童会を中心とした毎月の挨拶運動を実施。毎年挨拶を重点取組としており、校区内で挨拶をすれ違う瞬間に自然と挨拶ができるようになってきている児童が増えてきている。今後も、挨拶は、人としての基本であることを伝え、継続していきたい。 1-②「4点固定」の保護者肯定的評価の割合は当初39.1%、1%、(R5.7月)であった。1年の取組によって、61.2%と上昇し児童の評価69.1%に近しい数値になってきている。 課題としては、早寝ができていないと感じている児童の割合が最も多くなっている。2学期の取り組みとして、各クラスにて個別に声かけを行っていくことで、早寝や睡眠の意義について伝えていくと共に、自分の身体の成長に興味を持たせていく必要がある。	8	・早寝、早起きよりも「はみがき」を重視するという全国的な動きも耳にしたことがある。習慣化できているかどうかを調べ取り組むのも良いと思う。 ・「はみがき」「昼寝」がよいと聞いたことがある。農家はよくやっている。18分程度がよい。やってみる価値はあると思う。 ・体を動かさないと眠くならないから外遊びがよいと思う。 ・何時間の睡眠時間がよいとされているのか理想的な睡眠時間を示すとよいのではないかな。	・早寝ができていないと感じている児童の割合が高いので、理想的な睡眠時間を示すなど、児童が目標設定をしやすくなるようにしていく。 ・自分の体の成長には睡眠が必要だと児童が実感できるように保健指導や学級活動の中で伝えていく。
教育研究の充実	学校風土としての教育研究の定着	1 基礎学力の定着 2 国語科を中心とした授業実践の充実	1 カリキュラムに沿ったモジュール学習の実施 2 広島大学難波博孝教授、桑田晶子先生を講師に招聘	1 漢字、数計算領域の児童の割合80%以上 2 毎学期講師を招聘し、評価・改善を実施	80% 100%	80% 100%	100% 100%	100%	A A	1 毎月モジュール時間割を作成し、確実に実施した。毎月末には、モジュール検定テストを実施し、合格するまで繰り返したことで、単元末テストでは、漢字78%、計算82%と基礎学力が定着してきている。全学年・学習状況調査では、国語科・算数科ともに全学年平均以上(国語全国+5.3、算数全国+2.6)であった。結果から、自分の考えが伝わるように表現を工夫する問題、図形の見取り図を理解し作図する問題等に課題が見られた。 2 安田女子大学難波博孝教授、「ことば」の教育研究会桑田晶子先生を招聘し、授業改善を行った。児童が目的意識をもって対話活動を行う姿が見られた。教師が児童の課題から、効果的な教材開発をしたりするなどの成果が見られた。 夏季休業中にも研修を行い、児童の課題を共通理解し、2学期からの取組を検討する。	8	・いろいろな工夫を取り組まれていることがよく分かる。 ・読書の習慣と学習が関係するということなので、読書を習慣づけることもよいと思う。 ・昨年度と比べてよくなっている。さらによくなるにはどうすべきかという問題提起をしていくのもよいのではないかな。	・自分の思いが伝わるように表現を工夫することができるよう指導していく。 また、児童が他者の表現の良さに気付くことができるようになるために、さらに「言語技術」指導を積み上げ、表現力の維持と向上を図る。 ・算数科における基礎的な知識・技能の定着を図るために、モジュールにおいて習熟度別指導の実施を行う。 ・教師の授業力向上を図り、文学と学力向上の授業づくりを充実させていく。
教職員の働き方改革	働きがいがある職場づくり	1 職場の労働環境の改善	1 ハード面(環境整備、時間外労働の削減)とソフト面(行事等の精選等)の改善	1 「学校における働き方改革アンケート」(市教委作成)Q「日々の業務の中で充実感を得られている」の肯定的評価の割合(昨年度：95.8%)	85%	90.5%	—	106%	A	1 毎週木曜日に加え毎月1回以上は全校5時間授業の日を設けるなど、昨年度から継続して、児童と向き合う時間の確保に努めている。市平均85.5%を大幅に上回っているもの。昨年度12月の本校の数値よりは下回っている。	8	・昨年度の数値より下回っているが、尾道市平均値と比べて高い。必要な支援があれば継続していく。 ・子どもたちの姿で充実感を感じられると思うので、子どもたちの成長が実感できる場をより多く設けてほしい。	・これから児童と向き合う時間をしっかりと確保できるよう調整することを継続していく。 ・業務内容の優先順位を意識しながら日々の業務をし、やりがいを感じられるよう意識改革をしていく。

【自己評価 評価】
A：100% (目標値)
B：80% (目標達成率) <100%
C：60% (目標達成率) <80%
D：(達成率) <60%

【外部評価】イ：自己評価は適正である。
ロ：自己評価は適正でない。
ハ：わからない。